

network ねっとわーく 厚生

vol. **2**
2006.11
財団法人山梨厚生会
山梨厚生病院



- 看護部から
- 各科だより 外科・糖尿病／内分泌科
- こんにちは、検査室です。
- 新たな仲間を紹介します。 ～山梨市立牧丘病院～
- その他 メンタルヘルスサポートについて



■ 編集・発行 ■

山梨厚生病院 広報委員会
TEL 0553-23-1311
URL <http://www.kosei.jp/>

～「やさしく・親切・ていねいに」そして誠実に～



看護部長 古屋 玉枝

山梨厚生病院の看護部には現在、保健師・看護師・准看護師が321名、看護助手・看護事務者89名の合計410名が在職しています。当部は、病院開設以来、「人間愛に満ちた、より質の高い総合医療」「広く地域に根ざした患者様本位の医療」を提供するという病院基本方針の下、昨日より今日そして明日へと、少しでもよい、質の高い看護を提供しようと努めてまいりました。その基本は、なんといっても良い人材を育てること、気付いたことは遠慮なくお互いに話し合い解決していく職場環境を創ることだと考え、業務改善・教育研修のシステム化を徐々に充実させてきました。

昭和26年に「山梨療養所」として産声を上げ、平成2年「山梨厚生病院」として更なる発展を成し今日に至る先輩達の努力に感謝しながら ----- 引き継いだ者として、これまで当部に連綿と流れる『3つの看護』～「心の触れ合う中で、患者様とともに創り上げていく看護」・「職種間の連携を図り、地域の皆様の要望に応える看護」・「日々研鑽を積み、豊かな人間性と高い看護感を持った看護」～を踏襲しつつ、未来に向けて、私は、次の3つの方針を掲げかつ自分に課しています。

1. 看護職員が積極的に発言し、協議の場へ参画できる組織作り、人作り
2. 患者様・ご家族の不安、疼痛を取り除き、その人らしく生活できるよう自立支援ができる看護の体制作り
3. 看護者であると同時に市民・住民である。看護者が一人の人間として自立できる環境作り

今、医療を取巻く現実、非常に厳しいものがありますが、これは今一度足元を見直す良い機会だとも言えます。「本当に安心・安全・安楽な看護ができていますのか?」「ご利用者は本当に満足されているのだろうか?」「現場の職員に過度な負担をかけていないか?」気がかりなことは沢山ありますが、千葉院長の下に、根津次子、古屋美代子両副部長を始め、師長(副師長)、主任(副主任)、看護職員全員の支援をいただきながら、コツコツと一歩ずつ進めば道は開けるものと考えています。どうか皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

最後に、敬愛する前理事長 故；三枝勇雄先生が教えてくださった言葉で本稿を締めたいと思います。「治療看護の根本精神は、あくまで利用者(患者様)をやさしく、親切、大事にする真心である。」

看護部の理念

山梨厚生病院の看護部は、病院の理念を常に念頭におき、個々の患者様に最高の看護サービスを提供することに全力を尽くします。

- ★ 私達は、笑顔で温もりのあるやさしい看護を提供します。
- ★ 私達は、医療(保健・福祉)チームの一員として、その人らしく生きることを支える親切な看護を提供します。
- ★ 私達は、知識・技術の向上に努め、患者様に安心、満足していただけるていねいな看護を提供します。

平成18年度看護部目標

1. 安全管理の充実・徹底
内服・注射・転倒 / 転落の3大インシデント要因の減少によりアクシデント0を目指す。
2. 快適な療養環境の提供
1) 接遇目標を常に自覚し、患者様・ご家族に満足していただける対応をする。
2) 整理整頓と計画的な清掃活動を行う。
3. 専門性を生かした看護の実践
1) 個々の患者様に沿った看護の計画・実践・評価・修正を行う。
2) 積極的な自己啓発によるスキルアップ
4. 組織機能の強化
1) 気持ちよく意見交換ができる職場作り
2) 交流実務研修による、各所属相互理解の促進と学び
3) 病院機能評価受審に向けての役割・課題の明確化と改善活動の実行

～外科を紹介します～

副院長／外科部長 山寺 陽一

皆様こんにちは。本年も早いもので、あと1ヶ月余を残すのみとなりました。この1年は皆様にとって、どのような年でありましたか？

今回は、私たち外科の診療内容などを紹介させていただきます。

現在、外科の常勤医は飯田名誉院長以下7名体制で、一般消化器外科・乳腺外科・肛門外科を中心とした診療を行い、更に外来化学療法及び人間ドック等の一部を担当しています。その他には週に一度、甲状腺外来も行っています。当院は、病院基本方針のひとつに「患者様本位の医療」を掲げておりますが、当科でも、「合併症の少ない、安全な医療を提供する」をモットーに、患者様本人・ご家族と医療スタッフ間の相互理解、信頼を重視し、患者様にとって最も良いと思われる治療法を皆で考え、選択するよう努めています。

平成17年の入院手術件数は、当科だけで371件（内：全身麻酔を使った手術例200例）、このうち緊急手術が75件となっています。手術の内訳は、胃がん・大腸がん・乳がん・肝臓がん・胆のうがん等の悪性疾患が132例、胆石胆のう炎・急性虫垂炎・ヘルニア・肛門疾患等の良性疾患が239例で、これからも分かるように幅広い分野の手術を行っています。特に最近は高齢の患者様が多く、全身麻酔症例の約半数が70歳以上の方で、80歳以上の方も16%程おられました。

高齢になると、当然ながら様々な合併症を有する患者様も多いのですが、当院の特徴のひとつとして、消化器内科は勿論のこと、循環器内科、呼吸器内科、糖尿病内科といった他の内科系診療科との連携が非常に強く保たれており、専門科の垣根を越えて他科医師と綿密に相談しながら合併症に対処できる体制が敷かれています。次に「乳腺外科」を紹介します。

当院は、以前よりマンモグラフィ（乳房X線撮影）検診認定施設となっており、地域の皆様に対するマンモグラフィ検診には、とりわけ力をいれてきました。平成17年の実施件数は、3,000件を越えており、さらに、平成17年12月には、「デジタルマンモグラフィ検診車」を導入し、施設外検診を開始、乳がんの早期発見に大きな力を発揮するものと期待しています。また当部門の担当である柚本医長は、乳腺外科・乳がん診断のスペシャリストであります。

私たちは、これからも峡東地区の中核病院として、地域の皆様とともに、地域の皆様のための外科医療を目指して頑張ります。今後ともどうぞよろしく願いいたします。



向かって左上より

天白 典秀（医師）
宮原 和弘（医師）
伊従 敬二（医長）
勝俣 優子（事務）
丸山 千永（主任看護師）
小俣しのぶ（准看護師）

左下より

柚本 俊一（医長）
飯田 文良（名誉院長）
山寺 陽一（副院長／外科部長）
三枝 孝文（副院長／ドック部長）

～メタボリック(シンドローム)な貴方・貴女へ～ 愛を込めて

糖尿病・内分泌科 医師 小石 佐和子

今年5月より山梨厚生病院に赴任してきた糖尿病・内分泌科の小石です。よろしくお願い致します。
私が医師になった約14年前と比べても糖尿病の患者さんは激増してきています。糖尿病の網膜症で失明する人は年間4,000人、腎症で人工透析を導入する人は年間14,000人を数えます。この異常な事態をどうとらえるか？日々私は考えています。

第2次世界大戦の終わった日本が貧しかった頃、糖尿病の患者さんは探し出すのに大変なくらい少なかったそうです。その後の糖尿病患者さんの激増の原因は、皆さんもご存知のとおり、食生活の変化（欧米化）、運動不足、ストレスといった環境因子が挙げられます。もともと日本人は欧米人に比較してインスリンの分泌は半分程度と少なく、糖尿病になりやすい人種なのです。食生活の欧米化に、日本人の膵臓はついていけないのです。食事の変化で今最も言われているのが、脂質の過剰摂取です。実は1975年をピークに日本人の1日摂取のエネルギー量は減っており、また御飯等の炭水化物の摂取も漸減しています。なのに、糖尿病が増加しているのは脂質の摂取の増加に伴っています。食事制限というと真っ先に御飯を減らす人が多いのですが、実際にはおかずの油分（脂質分）にこそ注意が必要なのです。その他に野菜を多く取り、間食やアルコールを控えるといった誰もが知っている知識を実行に移せるかがポイントなのでしょう。

もう一つ糖尿病患者の増加と比例しているものとしては、車の販売台数が挙げられます。そう運動不足の件です。山梨は特に車社会です。100mと離れていないコンビニへ行くのにも車に乗っていませんか？1日の歩数と糖尿病の発症には密接な関連があるとの報告があります。歩く人ほど糖尿病になりにくいのです。

そしてストレス、外来で糖尿病患者の患者さんを診察していると1ヶ月に1回の出会いなのですが、急に血糖のコントロールが悪化した原因から、その人のストレスが垣間見えます。火事、転職、配置換え、近い関係の人の病気や死、といった出来事で血糖の悪化を起こします。

糖尿病はとにかく日々の生活に密着した病気です。生活習慣病ですから、何らかの形で患者さんに、ライフスタイルを変えてもらえるよう考えサポートしていきたいものです。当院ではCDE(糖尿病療養指導士)の資格をもった看護師が糖尿病外来を支えてくれ、大変恵まれた環境です。

前書きが長くて肝心のメタボリックの話ができなくなってしまいました。今度皆さんに話をする機会がありましたら・・・腹囲が多い肥満の人は、心筋梗塞や脳梗塞になるでしょうという怖い話です。
ではまた。



向って左より 小林 みどり (副師長:CDE)
小石 佐和子 (医師)
加賀見さおり (看護師:CDE)
雨宮 恵 (事務)



～こんにちは検査室です～

臨床検査室 技師長 清水 由美

私達の勤務する検査室は、大きく分けて「検体検査部門」・「生理検査部門」の2つに分かれ、更に検体部門は、生化学・免疫・血液・一般・輸血・病理・細胞診・細菌の7分野、生理部門は、心電図・超音波の2分野に分かれています。今回は、各分野業務の簡単な説明と、スタッフを紹介させていただきます。



【検体検査部門】

- ・生化学検査～ 血液・尿等の成分を分析・検査し、病気の程度や治療効果判定、肝機能・腎機能・脂質等の検査を行います。
- ・免疫検査～ 血液中の腫瘍関連成分・ウイルス感染症・内分泌ホルモン・アレルギー等の検査を行います。
- ・血液検査～ 血液中の血球数、形態を調べ貧血・炎症の有無や顕微鏡で血液中の細胞に異常がないか等をチェックします。
- ・一般検査～ 試験紙による尿検査(糖・蛋白・血尿)、顕微鏡による尿・髄液・胸水・腹水中の細胞検査、便潜血検査等を行います。

▲ 向って左上より

道林 (血液・一般)
三枝 (生化学・免疫)
前島 (血液・一般)
坂本 (血液・一般)
古屋 (生化学・免疫)

左下より

正岡 (生化学・免疫)
清水 (技師長)
宿澤 (血液・一般)
天野 (生化学・免疫)

- ・輸血検査～ 輸血時の適合検査(血液型等)や輸血製剤が適正に使用されているか、副作用があるかどうか等のチェック管理業務を行っています。
- ・病理/細胞診～ 患者様の体組織、痰・尿中細胞を顕微鏡を使って観察します。がん検診(子宮・肺)検査も受持っています。
- ・細菌検査～ 風邪・下痢症・化膿創等の感染症の原因菌を見つけ、どの薬が有効かを調べます。



▲ 向って左上より

澤登 (病理)
高野 (輸血)
前島 (細菌)
庄司 (病理)

左下より

中嶋 (輸血)
深澤 (細菌)
太田 (事務)
菊嶋 (病理)



【生理検査部門】

- ・心電図検査～ 心電図や心臓超音波による循環器検査、呼吸機能検査を行います。最近話題の睡眠検査も実施しています。
- ・超音波検査～ 肝臓・腎臓・乳腺等の超音波検査、脳波検査、聴力検査等を行っています。また人間ドックでの各種超音波検査も担当しています。

▲ 向って左上より

秋山 (心電図)
鷹野 (超音波)
関 (心電図)
小河内 (超音波)
日向 (心電図)

左下より

野澤 (心電図)
田中 (心電図)
久保田 (心電図)
窪田 (超音波)

私達は、患者様によりよい医療を受けていただくために、「迅速かつ正確」をモットーに日々努力し、研鑽を積んでいます。また、待合での不安を少しでも和らげていただけたらと、提示物も色々と工夫しています。

新たな仲間を紹介します。

～山梨市立牧丘病院スタッフ紹介～



山梨市立牧丘病院 院長 村田 暢 宏

今年度4月、指定管理者制度により当牧丘病院は、山梨厚生病院の経営母体である財団法人山梨厚生会グループの一員となりました。移行に際しては「患者様には絶対ご迷惑のかからないようにしよう」と万全の準備を整え臨み、お陰様で目立った混乱もなくスムーズな移行ができたものと考えております。

これからも当院は、「地域の皆様に親しまれ、信頼され、必要とされる病院を目指す」という基本方針を掲げ、地域に密着した医療を提供すべく努力いたします。その目標に向かって一緒に汗を流す仲間を紹介します。



◀ 向かって左より

古屋 聡 (医長)	長戸 収 (放射線技師長)
古谷 英人 (医師)	住栄 節美 (検査技師)
望月 正英 (薬局長)	町田 真実 (栄養士)
古屋麻美子 (薬剤師)	岡 由利子 (理学療法士)



▲ 向かって左より

山澤智津子 (看護助手)	山田 成美 (看護師)
三枝かめよ (総看護師長)	荻原 操江 (准看護師)
岩間 進一 (看護師)	三枝美和子 (主任看護師)
山下 明美 (主任看護師)	岡部 貴美 (看護助手)
浅川 園江 (看護師)	田辺 昭弘 (看護師)

▲ 向かって左手前より

角田 里美 (看護師)	奥山さおり (看護師)
石橋 圭子 (看護師)	高根 裕子 (准看護師)
土屋真理子 (看護師)	荻原 英子 (看護助手)
武藤 竹子 (准看護師)	栗原くに子 (准看護師)
滝沢美佐子 (准看護師)	羽田野知子 (主任看護師)



◀ 向かって左より

標 麻子 (事務員)
 雨宮 和彦 (医事課長)
 向山 治重 (事務長)
 古屋 正人 (医事主任)
 宮澤小百合 (事務員)
 掛本 真理 (主任検査技師)

【指定管理者制度】とは？

平成15年に地方自治法が一部改正され、従来、公共団体と公共の団体にのみ認められていた公的施設の管理委託の対象がひろく民間法人や民間団体にも認められる事となりました。これまでの管理委託契約を締結して管理を委託する方式にかわって、地方公共団体が管理を委ねる法人を指定して、個々の公的施設の管理権を委ねるものです。

平成18年度外来患者様満足度調査を終えて ～ 調査結果のご報告～

広報委員会 池田久剛

平成15年7月に実施して以来、中断しておりました患者様満足度調査（アンケート調査）を3年ぶりに実施いたしました。さる7月24日(月)～7月27日(木)の4日間、当院を受診された患者様を対象にアンケート用紙を配布し、後日（おおむね2週間以内に）回答を返送していただく方式にて、配布総数1500枚の内、272名の方からご回答をいただきました。回答者の皆様にはこの場を借りて改めてご協力に感謝申し上げます。

アンケートの設問内容は、調査の継続性・対比性を考慮してこれまでとほとんど同一とし、評価設定も

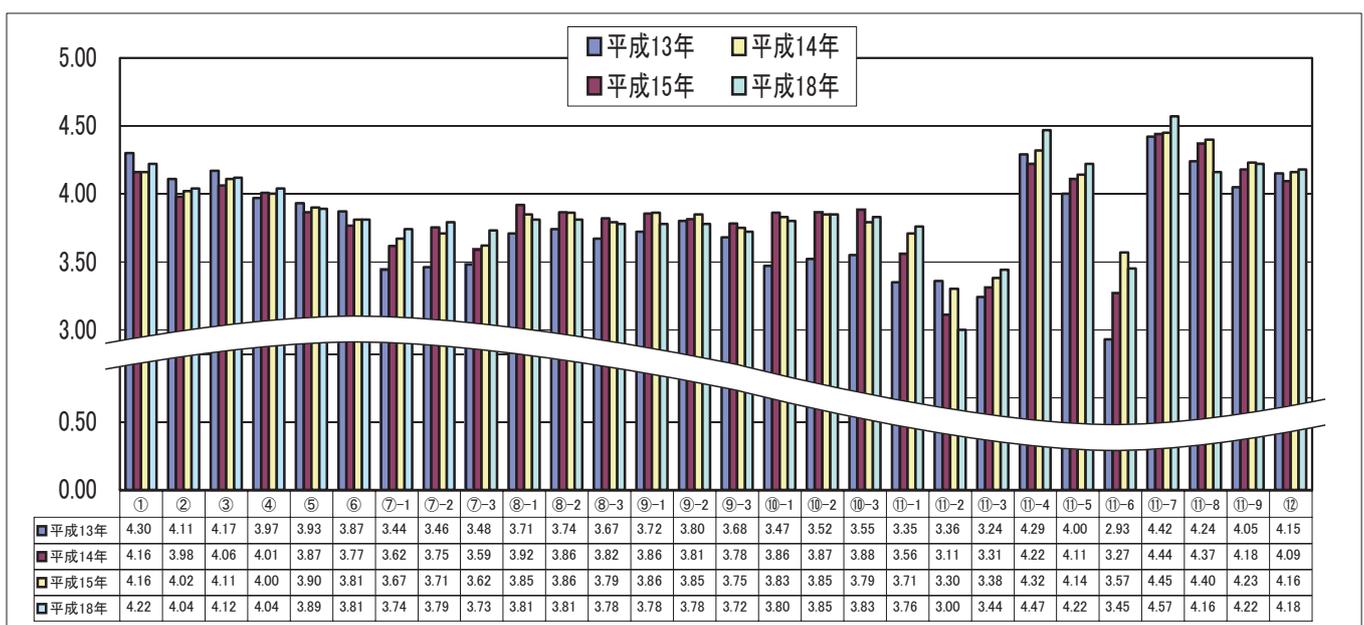
「1. 大変良い・非常に満足、2. 良い・満足、3. 普通・どちらとも言えない、4. 悪い・やや不満、5. 非常に悪い・不満」の5段階評価（待ち時間評価については3段階評価）を採用しました。

1の評価には5点、2は4点、3は3点、4は2点、5は1点の5点満点とし、この点数合計を有効回答総数で除して平均ポイントを算出しました。待ち時間については、「1. 特に長いとは感じなかった → 5点」「2. 長い但我慢できる範囲 → 3点」「3. 我慢できない長さ → 1点」として計算しています。

今年度の結果(平均ポイント)は以下のとおりです。

①医師から受けた説明は理解できたか		4.22	②医師の診療行為、診察に対する姿勢は		4.04			
③医師は、話や疑問点をよく聞いてくれたか		4.12	④看護師から受けた説明は理解できたか		4.04			
⑤看護士には質問・相談はしやすかったか		3.89	⑥注射・採血等のやり方は		3.81			
職員対応	⑦受付	⑦-1 対応全般	3.74	⑦-2 言葉づかい	3.79	⑦-3 説明	3.73	
	⑧放射線技師	⑧-1 対応全般	3.81	⑧-2 言葉づかい	3.81	⑧-3 説明	3.78	
	⑨検査技師	⑨-1 対応全般	3.78	⑨-2 言葉づかい	3.78	⑨-3 説明	3.72	
	⑩リハビリ	⑩-1 対応全般	3.80	⑩-2 言葉づかい	3.85	⑩-3 説明	3.83	
⑪待ち時間	⑪-1 受付	3.76	⑪-2 初診	3.00	⑪-3 再診	3.44	⑪-4 採血	4.47
	⑪-2 注射・点滴	4.22	⑪-6 会計	3.45	⑪-7 レントゲン	4.57	⑪-8 内視鏡	4.16
	⑪-3 その他検査	4.22	⑫今後の受診について（受診意向）				4.18	

今年度の結果(平均ポイント)は以下のとおりです。



12項目28設問中、4点台は10設問にとどまり、まだまだ全体のレベルアップが必要であります。中でも⑪-2、⑪-3、⑪-6の待ち時間の設問と、⑦、⑨の部門の職員対応に関する部分は、最重点課題として取り組まなければならないと考えています。

《調査結果から》

皆様には、アンケートにご協力いただき有難うございました。多くの貴重なご意見をしっかりと受け止めさせていただきます。質問項目が多く、ご回答にもエネルギーが必要だったことと思われます。

いろいろなご意見をいただいた中で、やはり最大の課題は「待ち時間の短縮」で、中でも受付、診察（特に初診）そして会計、また院外の薬剤センターでの待ち時間についてもご指摘をいただきました。個別のご意見の中にもありましたが、例えば内科の初診を専門に担当する医師が確保できれば、初・再診とも待ち時間が短縮できると思われませんが、現在は地域による医師遍在の問題や新臨床研修制度開始の影響もあって、医師の確保が非常に困難な状況です。思うように出来ないでおりますこと、どうぞご理解をお願いいたします。受付や会計につきましては、引き続き取り組んで参ります。

今後とも、地域の中心的な病院として、皆様の期待に応えられるよう努めてまいりますので、変わらぬご支援をお願いいたします。

院長 千葉成宏

メンタルヘルスサポートについて 職員専用ストレス相談室『ゆうゆう』オープン

臨床心理室 竹居 栄子

働く人の心の健康を守る試みが、社会のあちらこちらで始まっています。当院でも安全衛生委員会の中に「メンタルヘルスサポート部会」が発足し、職員の心の健康を応援する活動を開始しました。今後、メンタルヘルスに関する情報を提供したり、ストレスコントロールの講習会を行ったりと、様々な活動を展開していきます。その中でまず最初の取り組みとして、職員専用のストレス相談室『ゆうゆう』を開設することとなりました。

～“仕事のストレス” “人間関係のストレス” “身体的な不調によるストレス” “家庭生活のストレス”～私たちは、今あふれるようなストレスに囲まれて生きています。適度なストレスは人間の成長の糧ですが、一人で過剰な程抱え込んで疲れて身動きが取れなくなってしまいます。こうなる前には是非『ゆうゆう』を訪ねてください。相談担当者と適度なストレスコントロールについて話し合ってみてください。

悠々の「悠」、優しさの「優」、遊び心の「遊」、勇気の「勇」----- あなただったら「ゆうゆう」にどんな文字を当てはめ、どんな「ゆうゆう」ライフを目指しますか？

ストレス相談室『ゆうゆう』は、働くあなたの心の健康、大切にしたい「ゆうゆう」ライフを応援します。

◇ 相談員 : 臨床心理室のスタッフが担当します。

◇ 相談日等 : 相談は、原則として下記の日時で予約制となります。

月・火・木曜日 9時30分～17時（昼休みも受け付けます。）

土曜日 9時30分～13時

（申込方法等は、後日改めてお知らせします。）

* 個人情報保護法及び山梨厚生病院個人情報保護管理規則にのっとり、プライバシーは完全に守られます。

編集

秋の深まりを感じる季節、「ねっとわーく厚生」の第2号が完成しました。私たちは、本誌が秋の紅葉のように日々深みを増し、充実した内容となるよう、「皆様と心をつなぐ架け橋」なるよう努力します。

後記

第2号は、少し紹介記事が多くなってしまいました。今後は、ホットな話題、日々進歩する医療の情報なども掲載したいと考えています。皆様のご意見・ご感想をお待ちしています。

ご意見、自主投稿をお待ちしています。次号は平成19年5月発行の予定です。